

ネット・青葉 レポート

vol.
152<https://aoba.kanagawanet.jp>発行責任者: 神奈川ネットワーク運動・青葉 2026年10月1日発行 発行部数40,000部
〒225-0024 神奈川県横浜市青葉区市ケ尾町1151-1 203

- 酷暑など環境に応じた避難所政策への転換を
- クビアカツヤカミキリの被害からまちの樹木を守ろう!
- スクールソーシャルワーカーの現場から

神奈川県議
青木マキ

酷暑など環境に応じた 避難所政策への転換を



青木マキ HP

今年7月28日に発生した熊本地震では、その後の余震等に加え、8月には史上初の酷暑日を観測するなど、猛烈な暑さにより、避難所での生活は一層厳しさを増しました。

報道によると、熊本県では、指定避難所のうち少なくとも23か所が、空調設備がない、または停電で稼働できないなどの理由から、開設を見送ったとされています。

また、2024年1月、真冬に発生した能登半島地震では、災害関連死は530人にものぼったとされ、避難所の環境が命に直結することを改めて示しました。

低い神奈川県内の避難所空調設置率

避難所に指定されている公立小中学校の体育館・武道館の空調設置率は、全国平均33・1%に対し、熊本県は20・9%、神奈川県も21・2%と低い状況です。県内自治体では、100%整備済みのところがある一方、設置数ゼロの自治体が15あり、今後の計画がない自治体もあるなど、大きな格差があります。

横浜市では、市立学校体育館への空調整備を5年間で完了し、建替・大規模改修予定校を除き、2029年度までに完了する方針です。

神奈川県内 避難所指定校体育館等の空調(冷房)設備設置状況

神奈川県全体 299/1,410棟 設置率21.2% 設置率0%:15市町村
神奈川県は100%になっていますが、避難所となっていない県立高校等は含まれていません。

自治体	設置/対象	設置率	自治体	設置/対象	設置率	自治体	設置/対象	設置率
神奈川県	2/2	100%	秦野市	1/31	3.2%	二宮町	0/5	0%
横浜市	129/543	23.8%	厚木市	24/41	58.5%	中井町	0/4	0%
川崎市	10/206	4.9%	大和市	6/32	18.8%	大井町	4/4	100%
相模原市	22/127	17.3%	伊勢原市	0/14	0%	松田町	1/4	25.0%
横須賀市	0/68	0%	海老名市	19/19	100%	山北町	1/3	33.3%
平塚市	0/51	0%	座間市	0/17	0%	開成町	1/3	33.3%
鎌倉市	1/26	3.8%	南足柄市	0/8	0%	箱根町	0/5	0%
藤沢市	14/54	25.9%	綾瀬市	15/20	75.0%	真鶴町	0/2	0%
小田原市	0/36	0%	葉山町	0/8	0%	湯河原町	0/3	0%
茅ヶ崎市	32/32	100%	寒川町	8/8	100%	愛川町	0/12	0%
逗子市	5/5	100%	大磯町	4/4	100%	清川村	0/2	0%
三浦市	0/11	0%						

文部科学省「空調(冷房)設備設置状況(小中学校)(令和8年5月1日現在)」を基に作成

熊本地震の教訓を活かして

国も、避難所となる体育館の空調整備の加速化や、新設される防災庁による備蓄拠点の整備、熱中症対策に必要な物資の備蓄などを概算要求に盛り込んでいます。

しかし、市町村の財政状況や施設整備計画もあり、環境整備には時間を要します。また、空調設備を整備しても、停電や地震による不具合で稼働できない場合があることも熊本地震の教訓です。

現在、県内にはスポットクーラーが県所有で10台、市町村と合わせて210台、発電機は7400台整備されています。災害時には協定に基づく民間企業からの支援もあります。果たして十分なのかという課題があります。災害の種類や季節、避難者の状況に応じ、空調のある教室や公共施設なども避難スペースとして活用し、避難場所を柔軟に選択できる体制が必要です。また体育館も、空調だけでなく、断熱化や非常用電源、可搬式冷暖房設備などを組み合わせ、停電時にも一定の温熱環境を確保する必要があります。

これらを踏まえ、青木マキは県議会において、避難所の選定・運営、非常用電源、福祉的配慮、気候状況に応じた機器の整備、建築物の断熱化などを横断的に捉え、気候や環境に応じた避難所政策への転換を提案しました。想定を超える災害が相次ぐ中、これまでの教訓を活かし、気候危機にも対応した避難所となるよう、不断に計画を見直していくことを県に求めています。

クビアカツヤカミキリの被害からまちの樹木を守るうー！

猛威を振るう特定外来生物

クビアカツヤカミキリは、モモ、スモモ、ハナモモ、サクラ、ウメなどのバラ科の植物が大好物。樹木の中に侵入した幼虫が幹や枝を内部から食い荒らすため、全国的に被害が急速に広がっています。成虫の活動期は6月から8月頃で、この間に爆発的に増えていきます。繁殖力が非常に高く、「特定外来生物」に指定されているため、捕獲して持ち帰るなどの行為は罰則の対象となります。

街の樹木を守るため、まずは「知る」ことから

8月19日には、日本樹木医会神奈川県支部長の持田智彦さんを講師にお招きし、クビアカツヤカミキリの生態や対策について学ぶ学習会を開催しました。

「成虫が発生すると爆発的に被害が拡大し、木は伐採を余儀なくされる。だからこそ、幼虫の段階で見つけて対処すべき」と持田さん。さらに、「都市部の街路樹や公園では、倒木による事故など思わぬ二次被害

詳細記事は



！成虫は見つけたら捕殺が最善！



フラスと呼ばれる木屑を含む排泄物が木の根元に落ちていたら横浜市のみどり環境局環境活動事業課(045-671-3448)または神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課(045-210-4310)に連絡を！

にもつながるため、薬剤散布や伐採などの迅速な処置が必要です。早期発見・早期対策のためには市民の目が大切だ」と、地域全体の取り組みの重要性を呼びかけました。

まちの樹木を守るために皆さんもアクションしてみませんか？

(梅原昭子)



「イベント案内」

介護フォーラム 2026 **これでいいのか？ 崩壊寸前の介護保険**

高齢になっても安心して暮らすために・・・

日時：2026年11月14日(土)
14:00~16:30 オンライン同時開催予定
*会場が地下のため、回線トラブル時は録画配信致します。ご了承ください。

場所：横浜にぎわい座 B1Fのげシャール(小ホール)

プログラム

基調講演：上野千鶴子さん
パネルディスカッション：現場の声を届けよう！

コーディネーター：若林智子さん(NPO法人ピッピ・親子サポートネット)

介護の崩壊をさせない実行委員会

お申し込みは

主催：介護の崩壊をさせない実行委員会

スクールソーシャルワーカーの現場から

7月19日、神奈川県立高校でスクールソーシャルワーカー(SSW)として活動されている美濃屋裕子さん(社会福祉士・公認心理師・学校心理士)を講師に迎え、オンライン学習会を開催しました。神奈川県立高校には2015年度からSSWが配置され、社会福祉の専門職として、家庭環境や経済的困難、精神的な不調など複合的な課題を抱える子どもや家庭を支援しています。美濃屋さんからは、女子生徒の中退率が上がっていること、若者の間に市販薬のオーバードーズ、外国につながる若者たちへの支援策の遅れなど、様々な問題提起がありました。また、子どもから若者へと成長する過程で

支援が途切れやすい現状や、社会参加を支える仕組みの必要性についても提起をいただきました。ドイツの視察報告にあった27歳までを若者として位置づけ支援するしくみも大変参考になる事例でした。

誰もが安心して成長し、自分らしく社会の一員として歩んでいけるためには、学校だけに役割を求めるのではなく、地域や社会全体で若者を支える仕組みづくりが欠かせません。ネット青葉は、地域食堂やフリースクール等を運営する仲間とも引き続き連携し、現場の声から得た学びを生かして、今後も若者支援の充実について提案していきます。

(五十嵐ひろみ)

ぜひご参加ください！

